

# 農園通信

2021年5月・6月

発行・問合せ先 福田  
(農業振興団体協議会・町民農園部会)

[fukuda-ka@amail.plala.or.jp](mailto:fukuda-ka@amail.plala.or.jp)

## 先手先手の野菜づくり

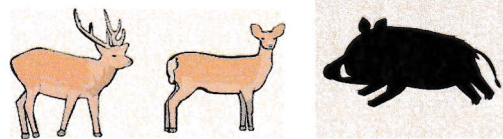
- ♣春の小松菜・ほうれん草、きれいに発芽しー安心とのんびりしていたら、あっという間に塔立ち(花芽が付く)。春の植物の成長は一気にですから、早めの間引き・追肥・収穫です。
- ♣夏野菜はどんどん大きくなります。ピーマンやナスが元気に枝を伸ばしてたくさんの実を付けた。喜んでいたら、実が重くなって枝が“ポキッ”と折れていた。
- ♣トマトの成長は早い。脇芽取りが遅れると、どれが脇芽か分からない。森のようになってしまいます。
- ♣カラス・ヒヨドリの鳥害対策も早め早めに！被害が出る前に対策を。トウモロコシは1本に1個しか出来ませんから、カラスに取られたらそれでお終いです。先を読む能力が必要です。



ことわざ「上農(じょうのう)は草を見ずして草を取る。…中農は…下農は …」

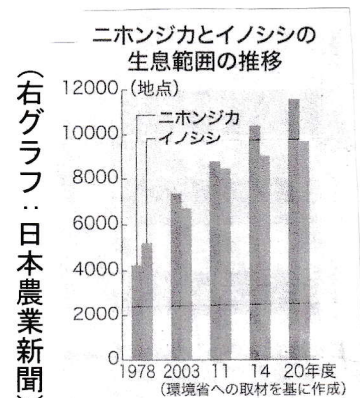
賢い農民は、雑草が生える時期を知り、草が地表に現れないうちに(地中で芽吹くと)中耕除草します。鍬でサア〜とやるだけで簡単に除草できます。(除草は草が大きくなればなるほど労力がある) 上農とは、先を読んだ農作業をする人のことです。…なかなかそうはいきませんが。( ; ∇ ; )

## 鹿・イノシシの獣害は？



イノシシに筍や、サツマイモがやられる、鹿に畑を荒らされる。悔しい思いを何度も繰り返します。獣害は、個々人では対応できない実に厄介な問題です。島本町環境課にお話を聞きました。(最近はいノシシだけでなく鹿の被害も増えている。対策の中心は「くくり罠」や「捕獲檻(オリ)」の設置で、イノシシと鹿用の檻は20数か所設置している。柵等は効果が難しいように思う。令和元年度の捕獲数は、イノシシ37頭鹿30頭。捕獲した獣は状態の良いものは、「命を無駄にしない」よう食肉(ジビエ)として利用。町内のジビエ料理店に協力を頂いている。ふるさと納税の返礼品としても活用。)

環境省の調査によると、全国的に生息域が拡大している。この40年間でニホンジカは2.7倍、イノシシは1.9倍に拡大。原因は温暖化による積雪量の減少や耕作放棄地の拡大などが影響している。捕獲数はとても目標値に届かない状況らしい。人口減少でかつ居住地は都市に集中ですから、人間以外の生き物の生息域が拡大するのはある意味自然なことですが、問題はそれだけでなく、現代人の自然に向き合う能力が低下していること。昔の人の知恵と能力に学ぶことから始めることが必要なのかもしれません。



### 農地所有者の方へ

「農家が楽で利用者が楽しい市民農園の開設・運営の仕方」懇談会を開催。  
日時・場所はお問い合わせください。農家がスムーズに農園の運営が出来るよう  
また利用者にとっても気持ちの良い農空間となるよう、情報を発信しています。

# (;^ω^ )失敗は宝

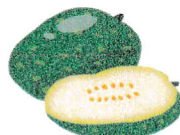
うまく出来たことは意外と忘れるものです。反対に、失敗は悔しさと共に記憶に残るので、失敗からいろいろ学べます。失敗大歓迎！  
**レベルアップの鍵は失敗にあり**

## 経験談



<キュウリは思ったより低温に弱い> (Oさん)

今年ではできるだけ早くキュウリを収穫したいと思い、ダメ元で価格の安い苗を購入して植付けました。キュウリ苗の周りにワラを置きビニールトンネルをして苗を寒さから防御しました。しかし、尺代地区の畑に植付けたものは数日で全ての苗が枯れてしまい、桜井地区のものは15本のうち枯れたのは1本のみですが、生き残ったキュウリ苗も生育がいまひとつです。キュウリの植付けは暖くなる4月中旬まで待っても良かったかも知れません。



<気温と発芽> (Hさん)

5年前から毎年ミニ冬瓜を作り続けています。初年度は、4月初旬にポットに撒いた種が順調に発芽し、5月下旬に畑に移植。ところが次年度以降4月中旬以前に撒いた種は全く発芽せず、暖くなる4月末～5月中旬に撒いてやっと発芽するという結果でした。発芽にはある温度が必要なのでしょう。畑に移すのが6月になりますが、それでも1株から平均20個は収穫できましたので、焦って早く苗を作ろうとする必要は無いと悟りました。温暖化で夏が長くなっていることが収穫量を保っている原因と思います。今年はゴールデンウィークに種を撒きます。

<苗づくりに低温被害> (Sさん)

ビニールトンネル内で蒔くので大丈夫だと思っていたのですが、キュウリ(四葉系)は双葉の状態被害に遭い葉が黄変しました。本葉が開くようになったので、何とか持ちこたえるのではないかと考えています。トマトも本葉がのぞくようになってきました。ナスは双葉の儘なので念のため4月28日に播き直しをしました。

夏野菜の植え付けは、低温、遅霜、の心配のない5月の連休明け以降でも大丈夫の筈ですが、苗の生育が悪く、少々焦っています。

<3月畑終い> (野菜づくりビギナーSYさん)

昨年、初めて農園を始めました。畑に種を蒔いて目が出た時、思わず声を出して喜びました。夏にオクラがわんさか出来て、オクラがとても愛おしく、トウモロコシ、枝豆も、そして、キャベツにブロッコリー、どれも美味しく育ってくれて、そして、作物を育ててくれた畑にありがとうの気持ちでいっぱいになりました。来季も愛情込めて畑と向き合いたいと思います。

<菜園と我が家の料理>



(HOさん) 秋に生った赤くならないミニトマトはピクルス感覚で鷹の爪を入れてカンタン酢に漬け、冷蔵庫で保存します。弁当にも使えてとても重宝です。

(Fさん) 「ひすい豆」 えんどう豆 300g の豆を取り出し、ひたひたの水で軟らかく煮る。(煮過ぎないように) 酒少々、砂糖小さじ2~3、塩小さじ1/2、醤油小さじ1を加え軽く火を通す。煮汁ごと器に盛り、豆を煮汁ごと頂く。贅沢な一品です。コツ♡煮詰めない。だしを入れず豆の味を生かす。

市民農園はコミュニティ、福祉、環境、耕作空間として都市に必要なもの。

市民農園(農家と町民)が食や環境の面から地域を維持発展させることをめざします。